



被爆75年企画展

広島平和記念資料館のあゆみ第一部

礎を築く

— 初代館長 長岡省吾の足跡

期間

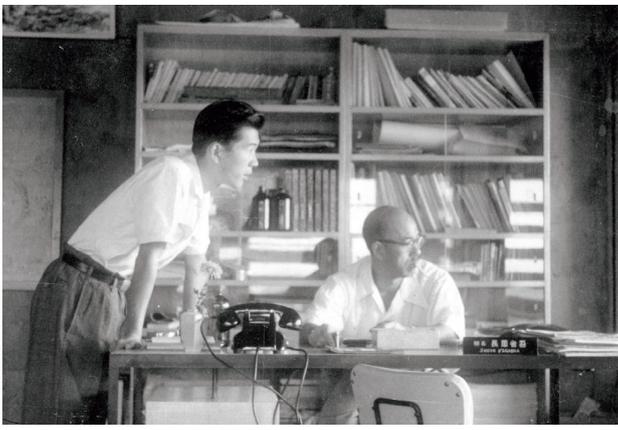
2020年7月22日(水)～
2021年2月23日(火・祝)

場所

広島平和記念資料館東館1階
企画展示室

入場無料





広島平和記念資料館館長室の長岡省吾氏(右)
1955年(昭和30年)~1957年(昭和32年)ごろ 荒田誠之助提供

広島平和記念資料館は、今年開館65年を迎えます。資料館では開館以来、被爆の痕跡が残る資料を展示し、原爆被害の実態を伝えてきました。その展示の基になったのは一人の人物が被爆直後から広島市内に入り、焼け跡から収集した資料でした。その人物の名は長岡省吾。資料館の初代館長です。長岡氏は資料を収集するだけでなく原爆に関する調査・研究を行い、生涯をかけて被害の実態を明らかにしようとしました。

企画展では、近年長岡氏の遺族から資料館へ寄贈された資料を基に同氏の足跡をたどりながら、資料館が開館するまでの歩みと開館初期の状況について紹介します。

展示構成

焦土を歩いて
収集した資料の公開
広島平和記念資料館の開館
衰えぬ情熱



銀行の石段の影を指さす長岡氏
福島志津子提供



溶けた皿の塊
長岡省吾収集



被爆した金属試料の収集
長岡省吾収集

「原爆の被害は
今も止むことなく続いている。
われわれの研究と努力は
更に続けられ深められることである。」

「HIROSHIMA」
長岡省吾 刊行の言葉より



調査に使用したクリノメーター(左)
測定結果を記した手帳(右)
長岡省吾収集



開館当初の展示室
1955年(昭和30年) 大林組提供



熱線を受けた墓石を説明する長岡氏
1957年(昭和32年)10月26日
中国新聞社提供



原爆記念館の被爆後の広島市内の模型
1953年(昭和28年)9月26日
佐々木雄一郎撮影 塩浦雄悟提供

〈表面の写真〉

左上／広島平和記念資料館の資料の収蔵場所
福島志津子提供
右下／広島護国神社の玉砂利を見つめる長岡氏
長岡省吾収集

「HIROSHIMA」
長岡省吾収集

